民俗資料室ギャラリー展示19

承徳の民藝品 ―伊東祐信・知恵子コレクション展―

2014年10月6日[月]–11月29日[土] 民俗資料室ギャラリー [13号館2階]

10:00–17:00 閉室日: 日曜日・祝日、10月28日[火]–11月1日[土] 特別開室日: 10月26日[日]、11月3日[月] 入場無料

MAU M&L

民俗資料室ギャラリー展示19

承徳の民藝品

―伊東祐信・知恵子コレクション展―

主催：武蔵野美術大学 美術館・図書館

ギャラリートーク

10月11日［土］13:00–15:00
武蔵野美術大学 美術館ホール

甲田洋二 監修・本学学長
伊東祐満 寄贈者

伊東コレクションの来歴とともに、
それらが生まれた承徳の様子を、
当時の映像や写真とともに紹介します。

ワークショップ

「中国切り紙『剪紙』を作る」
11月8日［土］13:30–15:30
第10講義室

講師：上河内美和 剪紙作家
＊定員30名・要予約（電話か来室にて）・無料

北京で学んだ作家の指導の下、
中国の庶民の間で伝承されてきた
剪紙（せんし）の世界を体験して下さい。

建築家伊東忠太の次男として生まれた
伊東祐信（すけのぶ）（1909–1994）は、父の勧めもあり、
1935（昭和10）年に満洲国民生部嘱託として
熱河省承徳（しょうとく）（現・中華人民共和国河北省承徳市）
に赴任します。彼の仕事は「熱河古蹟」と
呼ばれる、清朝の離宮「避暑山荘」および、
その周囲に存在する「外八廟」というラマ廟
（チベット仏教寺院）群の修復・保存でした。
祐信は1940年に知恵子と結婚し、
承徳で共に暮らし始めます。二人は満洲の
人々の生活を知り、彼らが日常的に
用いる生活用具を収集することを共通の
楽しみとしていました。
第二次世界大戦の戦況が悪化し、1943年に
新京（現・長春市）に転居するまでに彼らの
収集品は、1000点近くに及びました。
それらの多くは奇跡的に戦火を逃れ、現在も
当時と変わらぬ姿を見せてくれます。
今回の展覧会は、祐信・知恵子夫妻が収集した
資料の数々を紹介するとともに、満洲の
生活や当時の日本人が中国に向けた関心の
あり方の一端をご覧いただくものです。

1

2

3

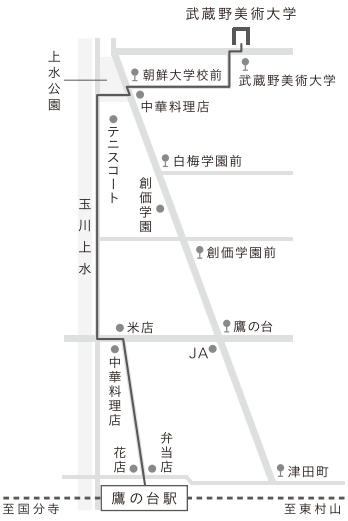
4

5

6

1. 老虎帽（子供用の防寒帽）
2. 獅子型の錠前
3. 布老虎（虎のぬいぐるみ）
4. 窓花様子（新年を寿ぐ切り紙）
5. 搬不倒（起き上がり小法師）
6. 手提げかご

表写真. 靴下



1. JR中央線国分寺駅乗換、
西武国分寺線鷹の台駅下車、徒歩約18分
2. JR中央線国分寺駅北口下車徒歩3分
西武バス国分寺駅北入口発
「武蔵野美術大学」または「小平営業所」行
武蔵野美術大学下車

武蔵野美術大学 美術館・図書館 民俗資料室
〒187-8505 東京都小平市小川町1-736
TEL.042-342-6006
URL.musabi.ac.jp/folkart/